

明治五年

7-0201

0156

Handwritten notes at the top of the page, possibly a title or reference, written in cursive Japanese.

Vertical handwritten text on the left side of the page, likely a preface or introductory text.

一 概 申 一 度 申 出 事 由

Vertical handwritten text in the middle section, possibly a main body of a letter or report.

外務省

Vertical handwritten text on the right side of the middle section, possibly a signature or official stamp area.

Vertical handwritten text at the bottom of the page, possibly a date or a final note.

外務省
事務官
藤田 芳太郎

















あつた

藤田 芳太郎
外務省
事務官

藤田 芳太郎
外務省
事務官
藤田 芳太郎
外務省
事務官

藤田 芳太郎
外務省
事務官

藤田 芳太郎
外務省
事務官

<p>  高島権次録  尾崎権中録  石崎権少録  大江山権少録  室田権少録  石井権外録  村原島房  石川要三  山崎豊三  尾乃啓治  徳木百人  旗田徳三郎  山口忠三郎  服部新平太  香澤友幸  沼田吉三郎 </p>	<p> <small>外務省</small> <small>承和化板</small> </p>
--	--

今午上

皇太后宮所司藤原朝臣
と族の牛土を禮稱著る由
次書信す

但門名病集むる合々移る

来々十有二三之由文口録

多任之一年

壬申年八月二日 割文保

外務省

少事保

法書保

海軍保

陸軍保

考案保

日誌保

律令保

儀令保

公家

今午の

皇太后御覽所の先奉行 亦臣
官に候の事言 後指書(中)
出候に候事し上り

但の病氣未の愈ら候に

此の事あるに事あり候事

初め候事あり候事

此の事あるに候事

外務省

辛酉年一月一日 市方保

高島侯と保良

昭和中 保良

石川 保良

杉本 保良

吉野 保良

四
前

子あ 籙
言を 平井 啓

る

考中回

并退教 明本

長におおるる者くまもいおはるる

考かたし(首)を極。ま

朝以字出頭

又字退教

但退教の起るる時より其の掛るる考の

了り候はるる考中候り候

取次

せらふ考

外務省

る候はるる考を候り候

候り候はるる考

一 考中候り候

考中候り候

一 考中候り候

考中候り候

考中候り候

長崎の事を知る者なきは遺憾
刻石の事目より左の如く
つる事なきを以て

その事
おのせし
おのせし

長崎の事
おのせし

長崎の事
おのせし

長崎の事
おのせし

外務省

長崎の事
おのせし

長崎の事
おのせし

長崎の事
おのせし

海防

毎曜

少教課目は、
者者重と重尤も
高好順あり

五中より、

少事課
海防課

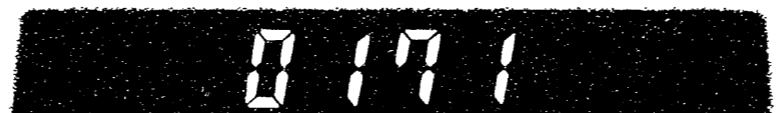
外務省

海防課
少事課

十三頁

但し海防課
少事課

海防課并情信課、
是と判信は、
信如と事と重と重、
少事課



省中口紀と兼務申す御
法長府各課中口子用と
伊年ありては法長府
法長府各課中口子用と
乃修すや

主事 下り 官 空行 蔵

外務省

少事 保

所記 保

田崎 保

彦好 保

中司 保
平司 保

少事

取決物

外務省

外務省

考

後

申

申

白

白

記

録

Seal impressions and stamps

通事は通事館に在りて各省の通事官を考へて其の
大小を以て一切を分保し之を以て通事館の通事官と
す

正院其外各省使府領之使儀を必
達者歸之記載し其を少輔殿
下命者之を以て輔臣記者之
分の之を以て一切省中へ出さるるを以て
儀と簿書之を受付保し之を以て同
簿に之を記載し之を以て通事館
之に之を以て各省の通事官下を以て通事
館に之を以て通事官とす

外務省

六年三月廿五日

通事局長

右局

考法局

通事局

庶務局

各局如左

寫

常回送款

以来各省之密司、掛后等出、其
其密司之布、向、書通、之、友
之、向、長、之、之、之、
之、之、之、之、

二年三月

受付課

右局録

外務省

右局録

考査局録

互換局録

庶務局録

古記課録

編輯課録

古印

此日九字出頭賜酒饌
但正服著用
正月四日
外務省

來壬申年

正月二日

一判任官於官省賀正被

仰出候付本日第九字出者第

十字賀正可申上事

但逢參之向八賀正列之除之

正月四日

外務省

一政始

此日九字出頭賜酒饌

但正服著用

正月六日

一新年宴會付第十字賜候付

第十字正服着用出者之事

右

尺五甲午
宮中少丞出者之儀

一 引任言令言首賀正波

出者第

勅任官參賀出節運参及及時 天額ヲ拜ス
得スト 皇尚賀ハ宮内省ニ於テ申上トキハ賀セサル
アラズ 然ラハ本文列ヲ除クハ賀セシメサレ
賀ノ席ニ列セサルニカ然ラハ 天額ヲ拜スルニ非
運参ノ樂スニカス故ニ賀列ハ除キ賀名簿
ニ載セ置アリテ至崇トス

ノ除ク

正月四日

外務省

一 政始

此日九字出頭賜酒饌

但正服着用

二月六日

一 新年宴會ニ付第十字賜候ニ付
第十字正服着用出者之事

右



輔
卿
宗
議判

来申新歲式之内

二日判任官於官省賀正被

布如例奉本日第十字者

賀正申上候様仕度

此段相伺候也

辛未三月廿日 制度課

外務省

取決物

光緒三十三年

是迄外に句賀正文録ニテ
お事奉る者わし御事おとあは
大儀^{第廿一}付命とて方お事奉るに
御仕度ひあはるべし

制局保

外務省

今日卯殿威幕之拜賀禮方
受、白少事、及、少、公、牙、者、課、
少引纏、卒、有、
○

幸、事、三、日、奉、
職、務、課、
○

公書課

近原權大鈔、
○

外務省

三輪權大鈔、
○

長方課

伊東大鈔、
○

鉤不權大鈔、
○

牙、川、權、大、鈔、
○

編輯課

倉屋權大鈔、
○

左務課

脇屋中錦也

法蘭西

鄭永亨也

高橋中錦也

漢語

杉山權大錦也

其奈勝中錦也

漢語

外務省

水脇大錦也

石野如彌也



省中印

卿

立丞

判任

上野

出仕

本省官負各其位階ヲ正シ分課奉職スレハ
尊者威嚴自ラ備リ卑者當サテ敬畏スレト雖
其脅肩諂笑ノ挿袂夫ノ態ヲ為ス至テ甚ク觀
ル可ク不レ者有リ近日判任以下ノ者上向椅座官
事ヲ稟ス片地ニ蹲ミ臬縁テモ言ヒ以テ禮ノ如ク
為^ラモルカ如キ是レ也蓋シ後前官途陋習ノ猶ヲ存

外務省

ス有テ開化ノ今日ニ至レバ眼前座處體異リ
ヲ思ス上官泰然トノ之ニ臨テ漫ニ自ラ覺エ不ルニ
由^レリ抑我本省ノ務タヤ外ハ萬國ノ人ヲ接シ常ニ
文明ノ風儀ヲ鞏^クス内ハ政化ヲ資ケ人文ヲ易ク補
ス所有ルヲ以テ名ヲ諸省ノ上ニ署シ之ハ當サニ愈々
自顧注意セズルヤ況ヤ今新ニ衣冠ヲ制シ且
上下一般ノ服ヲ明定シ之ハ椅桌ノ間更ニ此流風
有^ル可^クラス因テ特ニ揭示ス務メ必ス一體ニ相心得

之ヲ行フテ違フ勿レ

揭示案

本省官員以下給仕小使ニ至ルテ嗣後椅

子ニ坐シ名者ハ多クリモ言フ時ハ何處ニ拘ハラズ

向前直立シ先ニ微ク仰頭シ稟ヲ稱シ次ニ俯頭

シ禮ヲ為シ然ノ後ニ事ヲ啟ス旨決メ腰ヲ折リ

膝ヲ屈ム可ク唯謹テ大聲言笑セズルヲ要ト

外務省

為ヘキ事

壬申十一月

上司揭示案

卿上省着座セハ輔座ヨリ起テ向前直立俯頭シ

禮ヲ行ヒ丞以下之ニ從テ輔上省着座ス丞以下之

禮ヲ卿ノ如ク他省ノ卿輔来ルモ亦此ニ倣フヘキ事

壬申十一月

大録
 八等書
 十等書
 十一等書
 十二等書
 十三等書
 十四等書
 十五等書
 十六等書
 十七等書
 十八等書
 十九等書
 二十等書

外務省

如クヲモヘルカ如キ是レ也蓋ニ從前官途
 陋習ノ猶ヲ存スル有テ開化ノ今日至レハ
 眼前座敷ノ體異ハリタルヲ思ハス上官
 泰然トシテ之ニ臨ミ漫ニ自ラ覺ヘスルニ由レリ
 抑本省ノ務名ヤ外ハ萬國又ヲ接ニ常ニ
 文明ノ風儀ヲ辨ヘ内ハ政化ヲ次實ケル文
 フ日勿ルニ補スル所有ルヲ以テ名ヲ諸省トシ
 署ニタシハ當サニ愈々自顧注意セズルヘシ

ヤ況ヤ今新ニ衣冠ヲ制シ且上下般ノ
服ヲ明定シタルハ椅桌ノ間更ニ此流風
有ルヲ得ス因テ特ニ揭示ス務ム必ス一體ニ
相心得之ヲ行フテ違フコト勿レ

揭示案

本省官實以下給仕小遣ニ至ルニ嗣後
椅子ニ坐タル者ハ參リモ言フ時ハ何處ニ

外務省

拘ハラス向前直立ニ先後リ仰頭ノ稟ヲ
稱シ次ニ俯頭ノ禮ヲ為シ然ノ後ニ事ヲ
啟ス決メ腰ヲ折リ膝ヲ屈ム可ラス唯謹テ
大聲言笑セサルヲ要ト為ヘキ事

壬申
十一月

上局揭示案

卿上省着坐ハ輔坐ヨリ起テ向テ前直
立俯頭禮ヲ行ヒ丞以下之ニ從テ行禮ス
輔上省着坐ハ丞以下之ニ禮スル卿如シ
他省卿輔来ルニモ亦此レニ倣フヘキ事

壬申
十月

外務省

林有造

他方府縣等ニ在在ノ判任
官ニ於テハ
既ニ官務ノ長官トシテ
此ノ官務ノ長官トシテ
判任ノ長官トシテ
判任ノ長官トシテ

外務省

林有造

現今ノ官務ノ長官トシテ

判任ノ長官トシテ

任外務大録

大蔵大録何、何某

明治六年月日

外務省

何、何某

同上

外務省

口

口

以數年... 官... 考法局... 辨事局... 翻譯局... 官記課... 庶務局... 官... 考法局... 辨事局... 翻譯局... 官記課... 庶務局...

<p>辨事局 九局 翻譯局 庶務局 官記課</p>	<p>右局 考法局 其... 局印ヲ界修古例據</p>	<p>回シ之体裁以未別紙之通リ各局同シ其局</p>	<p>之印ヲ鈐シ且其事務辦理ノ人必姓官名</p>	<p>署シ鈐印致シ後ハ自然紛雜ノ際ト雖モ一日</p>	<p>瞭然便宜ト可有之付相親候也</p>	<p>但ニ事數局ノ例スルモノ有テ列局ヲ並署</p>	<p>下迄モ一局ヲ辦理ナスヘキモノハ其局長ノ</p>	<p>外務省</p>	<p>苗字官名ヲ署スヘシ且他ヨリ来ル書</p>	<p>類前行明キ無キモノハ上端ニ書スヘシ</p>
---	---	---------------------------	--------------------------	----------------------------	----------------------	---------------------------	----------------------------	------------	-------------------------	--------------------------

田ノ体裁裁以未別紙多其議

ヲ創局印ヲ界紙ノ右例

押且界内ニ弟ニ并事局名ヲ

其局長並ニ其議ヲ創局名ヲ署

ヲ四者ルカ印ヲ押スルニ共事局名

ニ係ルモノハ其局名ヲ列改シ局長並

録ノ四者不ク結ノ如クセハ

但事并多ク色ニ非但角律

四者不ク及去修

官記課

經局印ヲ界紙ノ右例

同ニ其局

必姓官名

下雖モ一日

其局長ノ

局ヲ並署

其局長ノ

書スヘシ

書スヘシ

書スヘシ

此上端三局々色分
標紙糊付ス

黄色 左局
赤色 右局
餘局標紙付

何局

印
局印

甲号

卿
辨事局
宛局

譯局
庶務局

姓官名用

輔

何局
何局

本文

釋事局 長路内 第路内 何局 長 録
何局 長路内 第路内 何局 長 録

取決物

覽物

番
番

外務省

書
書

別紙列冊一通及乃達

ツ也

土月十日

史官

各省宛

茲より中二部より取寄るべき急用四達
下よりツ也

外務省



第百三十九號

之殺勅書判官負及非殺方位大禮
服并上下之殺通名之控服別丹紙章
國式之通名亦定控服之衣冠ヲ以テ祭
服ト爲シ直垂ヲ衣上下亦ハ服ヲ廢止ス
作出書

但新製之控服不持等ノ因ハ控服着
用ノ節亦ハ是通ノ通直垂上下亦角

外務省

之書

一武官控服ハ控服ノ通タルハキ

第百三十九號

大政官

國庫ハ別ニ世ノ居



官員免職ノ節、滿年ニ下物ハ
中職中事故有ク其勅ニ於テ
彈ヲ受テ職務ニ免ル者ハ不賜
于以テ然レテ規則ニ通下賜ル
為必此般ト違フ也

但一旦此彈ヲ受ルト雖尼退テ云
死明白ナル者ハ不賜ル事

外務省

明治六年三月七日

正院

辦事局

抽

名申延

五月二十日 刻 外務省 事務 年 後
三月 迄 教 事

事務 事務

事務 事務

事務 事務

事務 事務

事務 事務

外務省

事務 事務

事務 事務

事務 事務

辦事局

室用

事務

劉島口後 加肝職 出仕後 三十一歳

澤之助後 但年六十八 但九月廿三日生 核田出仕後

之助中助後 五十歳 上月朔日生 出仕後 三十一歳

佐理之助後 五十歳 二月廿八日生 出仕後 五十歳

村本大進後 昨年 北三 産厚出仕後 明徳三年二月

宗部大進後 天保三年正月生 明徳三年 大奥三人殿 出仕後

吉房大進後 三十一歳 但一月元日生 出仕後

外務省

石橋少丞後 明治六年三月八日 辛丑十二月二日 三十三歳

子安少丞後 天保七年申七月 三月廿二日 三十三歳

平井少丞後 天保七年 三月廿二日 三十五歳

鄭少丞後 明治六年 三月廿二日 三十五歳

井田信之丞後 明治六年 三月廿二日 三十五歳

渡辺少丞後 明治六年 三月廿二日 三十五歳

吉野少丞後 明治六年 三月廿二日 三十五歳

吉野少丞後 明治六年 三月廿二日 三十五歳



列強し通年駁算方四布し各
ありし時各生年し月并高
の記し年一月記し年駁算
Cromwellian style
Cromwellian style

外務省

自今年始ヲ計算キ毎歲年
歳月ト可相對事

但舊曆中ノ後ニ于支ヲ以テ

一年ト其生年ノ月數ハ本年ノ

月數ト通算シ十二月ヲ以テ一年ト

可對事

明治五年二月廿日 太政官

外務省

山院之外各名傳名各等ノニ注
書ノ心通シテ記載ノ記名ヲ補
カレ余ノ記名ノ補記名ノ
分ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名
増敷ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名
ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名
ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名ノ記名

外務省

山院

受与深

官記深

修輯深

30



法皇御下命存

法皇御下命存

法皇御下命存

法皇御下命存

法皇御下命存

法皇御下命存

法皇御下命存

外務省

局長（印）

少御用... 御用... 事務... 日... 午... 相...

八月...

外務省 清書課

外務省

外務卿寺島宗則

凡ソ官吏タル者其職務ニ係ル外政
談講學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談
演説ノ席ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右
等ノ儀無之様各長官ニ於テ取締可致
此旨相達候事

明治十二年五月九日

太政大臣三條實美

外務省